

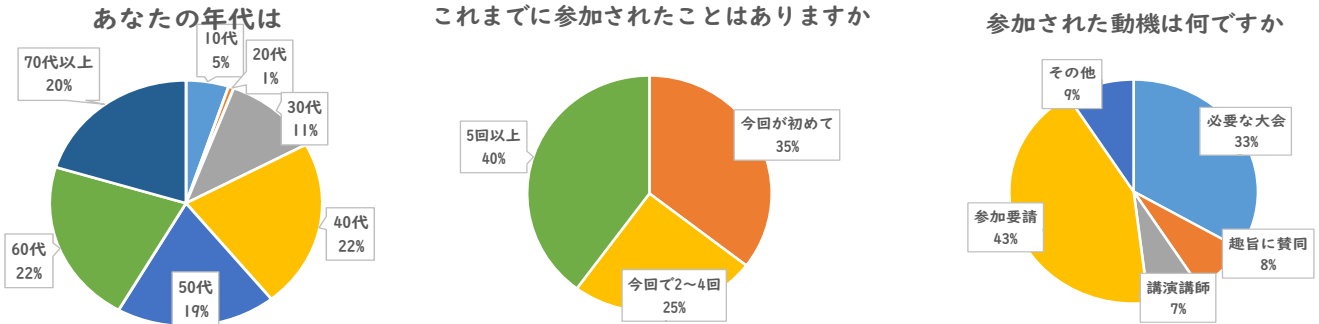


ぐんぐんすくすく！相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘4丁目5-5
 電話 0791-23-5070
 FAX 0791-22-7211
 E-mail ikusei-aioi@nifty.com



◆第45回相生市青少年健全育成市民大会(2026.1.25)のアンケート結果を掲載します。



感想
堀井さんの講演もとても深く親にも子にも必要な内容でした。もっと皆さんも参加されたらいいのに、もったいないですね
子供も頑張っているとわかった
堀井先生の講演、とても感動しました。お話もおもしろかったです！自分自身の子供とのふれ合いを大事にしたいと思いましたし、地域の子供たちのことも温かく見守っていきたくと思いました。目を見て話すや、名前を呼ぶ、スマホばかり見てはいけない...など、気をつけないといけないことを再認識できました。
大人の関わり方が子どもの成長に大きな影響を及ぼすと改めて思いました。職場でも家庭でも愛着のある接し方を心がけていきます。
参加者があまりにも少ない。多分200名ぐらいと感じました。せめて400名ぐらいの参加になって欲しい。記念講演が良かった。乳幼児期の子育ての大切さを認識させられました。
双小の活動が東京で発表することを新聞で知りました。今日は子供達主体に素晴らしい取り組みをされていることを知ることが出来ました。講演会では、自分の子育てを振り返ることができ、今まさに思春期の息子との関わりにどう向き合っていくかを改めて考えることが出来ました。みんなで愛情をもって育てられたらよいと思います。教育現場の先生方、大変でしょうが頑張ってください。
双葉小の取り組みの様子を見て、きちんと学校生活に取り組む姿にとても感心しました。講演については、とても実りのある時間でした。幼児期の関りが大事だと再確認でき、自身の子供とのプラスの関りをもっと増やしていこうと思います。また、地域の子供たちともどんどん関わっていこうと思いました。
地域で子供たちを見守りたいと思います。私も孫がいるので、すべての子供が愛情を豊かに育っていくよう協力したいです。
経験されたことをもとに話をさせていただいたので、講演で聞いたことは、今後の子供たちの教育に生かせると思いました。保護者の方がもっとたくさん聞いていただくとよい内容だと思いました。

感想
相生市の子供たちが健やかに育っていくことを願っています。あたりまえのことをあたりまえにやるというのがよかったです。小学生は純粋でいいですね。
いじめ防止のサミットの報告や子供たちのメッセージにつながりがあり、とてもわかりやすかったです。堀井先生のお話、心に響くものばかりでした。子供の心の根っこに寄り添えるように、家庭や地域と協力することの大切さを改めて考えさせられました。明日からの実践に生かし、さらに職場でも共有したいと思いました。ありがとうございました。
講演会の先生の言葉が心に響いた。問題行動を起こす子供をしっかり見つめ、まだわが子へもしっかり向き合っていきたいと感じた。
講演を聞いて、帰ったらわが子を抱きしめたくくなりました。
動画を通じて子供たちのキラキラの笑顔が見えてよかったです。イジメのない、子供たちが安心して通える、幼・小・中学校が相生にはあります!!といえる未来が作られるようにしたいと心の底から思いました。
子供たちの取り組み、講演会の内容が大変良かったので、もっと多くの方に参加してもらえたら、啓発の機会になると思います。
また要請がなくても参加したいと思います。
子どもの参加を増やしてみたいと思う。
市内の2高校の生徒が受付や司会をお手伝いしていることに驚き、良い取り組みだと思いました。記念講演のお話は時に涙が流れ、自身の子育てを振り返り反省をしました。
子どもたちのメッセージ動画がすばしかったです。講演では、いけない言動を叱るだけでなく、背景に目を向けることが大切だと再確認できました。素敵な時間をありがとうございました。
参加させていただき、本当に良かったです。地域ぐるみで何ができるか、個人の意識と行政の力が交わる活動がどんどん広がればいいと。何か参加できることはないかと思い、まずは自分の家から実践したい。そして、地域へもと思った。
大会への参加者が少ない気がしました。子どもたちのために市民の方々がいろいろな形で参加、協力されていることを「教師」「保護者」がもっと知ろうとすること、講演を聞くこと、が大切だと感じました。

(感想より抜粋)

思春期の子への関わり方 (1) 母親への反抗

【「親学サポートブック」
 (奈良県教育委員会発行)より】

Question 最近子どもが、私に対して反抗的な態度をとり、何かにつけてくっついてくるのです。

Answer 思春期の反抗は、新しい自分をつくる途中であることのサインです。成長を示すサインです。あまり神経質にならずに見守りましょう。思春期の子どもは、体は大きくなっても心はまだ子どもで、心身ともに不安定なのです。大人に向かっている途中であると余裕をもって受け止めるようにしましょう。この時期に反抗するのは自然であると思う方がよいでしょう。もし、この反抗的な態度がなければ、新しい自分に成長できないと考えてください。一般に母親は子どもの反抗のターゲットになる可能性が高くなります。それは、子どもの身のまわりの世話をやくことが多いからです。

「こんな先生になりたい」

「なぜかきられない生徒指導」(前 哲央著 東洋館出版社)より抜粋

先生を始めた頃は、誰も「こんな先生になりたい」という像があります。こんな授業をしてみたい。部活動で一生懸命に練習させて強いチームを作ってどんどん勝ち上がっていきたい。自分のクラスはこんなクラスにしたい。教室をこんな風にしていききたい。こんな学級通信を書きたい。そして、自分はこんな先生になりたい。もちろん理想の先生のイメージをもって、そうなるようとする努力は良いことだし、実際に生徒にも伝わる部分はあるでしょう。しかしその思いが強すぎて、生徒が置いてけぼりになってしまう場合があります。それには注意が必要です。

そのための方法として良いのは、「こんな先生になりたい」とイメージする「理想の先生像」を変えていくことです。「生徒のためになること」を一番に

考える先生になろうとすることです。そしてその「生徒のためになること」が実情に合っているものであり、生徒にとって良いものであるような客観性のあるものにしていくことです。実際私も、何十年も教師の仕事をしていますが、未だに「これは果たして生徒のためになっているだろうか」「独りよがりの価値観で判断していないだろうか」とよく考えます。他の先生とも頻繁に相談をします。「こんな時はこうすることがいいのか」「この時こうしたけれど正しかったのか」、いろいろな先生に聞いてみながら自分の客観性を確かめています。

どの仕事にも正解はありませんが、この仕事は特にそうだと感じています。そして変わり続けることができるというのは、教師として大切な素質ではないでしょうか。

Traveler of life

幸せは感謝で始まる

作家 喜多川 泰

「たぶん缶詰になって日本に来たと思います」
「こんな要領で、生産者から缶詰の加工業者、そしてスチール缶を製造する中国

「アメリカでコーンを作る人たちです」
「コーンって収穫した状態で来たのかな？」

「では君がコーンを食べるまでに、どんな人たちが関わっているのかな？」

「君が食べた味噌ラーメンには、何が入っていましたか？」
「コーンとナルトと・・・」

「僕が小学5年生の社会科の授業を見学した時、先生と児童がこんなやりとりをしていました。」

「そのためにはまず、「誰かのお世話になっている」という意識を持つことが大切です。」

「僕が小学5年生の社会科の授業を見学した時、先生と児童がこんなやりとりをしていました。」

「そのためにはまず、「誰かのお世話になっている」という意識を持つことが大切です。」

「僕が小学5年生の社会科の授業を見学した時、先生と児童がこんなやりとりをしていました。」

「そのためにはまず、「誰かのお世話になっている」という意識を持つことが大切です。」

「僕が小学5年生の社会科の授業を見学した時、先生と児童がこんなやりとりをしていました。」

この授業を通して、子どもたちは一杯のラーメンすら、世界中のたくさんの人たちが関わらなければ、作ることができないのだと分かります。

その事実に対して感謝の気持ちを持つことが「健全な相互依存関係」築くための第一歩です。それは同時に、人が幸せに生きるための第一歩でもあるのです。

生徒は「もういいよ、先生。とにかくいろんな人のおかげでラーメンが食べられていたということですね」と言っていました。

「これじゃあ、ラーメンのどんぶりに入っているのは、コーンだけだよ」と(笑)。

「これじゃあ、ラーメンのどんぶりに入っているのは、コーンだけだよ」と(笑)。

「これじゃあ、ラーメンのどんぶりに入っているのは、コーンだけだよ」と(笑)。

「これじゃあ、ラーメンのどんぶりに入っているのは、コーンだけだよ」と(笑)。



(福岡県で開催された講演会より)

(日本講演新聞 2025年12月15日号)

【きたがわ・やすし】愛媛県出身。東京学芸大学卒。2005年『賢者の書』(Discover21)にて作家デビュー。以降『いただきます』(audibleのみで音声配信)までの作品で、国内累計130万部を超えるベストセラー作家となる。『「また、必ず会おう」と誰もが言った』(サンマーク出版)は2013年に映画化された。全国各地でセミナー・講演会も実施している。